

日本語表現法 (Japanese Technical Writing)

専攻	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担当
教養	必修	1年	2	講義	一色誠子

【授業の概要】

本授業では、論理的な思考に基づく論理的な日本語表現（記述力）を高めることを目標とする。まず、自己の日本語力・日本語表現能力を確認・自覚することから始め、論理力を高めるための準備段階として、文の構成や組み立ての分析・読解を実施し、論理的な文章を書くための基礎的な事項を理解することを求める。授業の終盤では、小論文の作成と添削を繰り返すことによって、論理的な日本語表現法を身につける。

【学修の進め方】

論理的な文章を書くための基礎的な事項を、講義と文章の読解と分析作業で進める。また、小論文作成によって実践応用していく。自学・自習の内容については、学習シートに毎時間用意し、実施状況を定期的にチェックをする。また、日本語の運用能力を確認するため「日本語検定」の受検を奨励する。なお、授業時には、国語辞書（電子辞書可）を携帯しておくこと。

【授業の概要】	【授業項目】	【内容】
1回	授業の概要と進め方について 日本語・日本語表現能力自己診断	授業の概要と進め方について、シラバスを用いて説明をする。その後、自己の日本語・日本語表現能力がどの程度あるのかを、自己診断する。
2回	要約力を鍛える	新聞の「論説」「社説」を読み、文の組み立てや構成を分析する。正確に文章を読み解く方法をつかむ。
3回	小論文とは(1)	「作文と小論文の違い」「小論文のポイント」「課題の読み取り」「情報の集め方」を学習する。
4回	小論文とは(2)	「効果的な論証の方法」と「客観的な材料の取り入れ方」について学習する。
5回	事実と意見の書き分け(1)	「事実と意見の定義」から始める。事実と意見の書について、例文を用いて学習する。
6回	事実と意見の書き分け(2) 小論文 意見文	論説文を読み、その文章に対して意見文を書く。書く前に、意見文を書くポイントについて説明をする。
7回	文章の構成法(1) 段落と パラグラフについて	文章を、意味のまとまりで区切ることを意識する。例文を正しく書き直す事で、確認していく。
8回	文章の構成法(2) アウト ラインの作り方について	「明確なアウトラインを作るための三段階」について、学習する。小論文を返却するので、さらなる効果的な文章を作成するために、自己点検をする。
9回	小論文 課題文	文章の構成法(1)(2)を意識して、文章を作成する。課題文のタイトルと、準備のためのシートは前の回で知らせ配布する。
10回	文の三原則(1) 正確な文 章を書くには	主語と述語の関係を考える。例文の書き直しによって、正確な文章とはどのような構成であるかということを目覚める。
11回	小論文 課題文	先回の小論文を、添削の上返却をする。提出の文章には、個別にアドバイスや評価が記してあるが、全体講評をする。その後、実作に移る。
12回	文の三原則(2) 明快な文 章を書くには	文中の語句と語句との関係や、句読点の打ち方について注目する。例文を直すことで、確認していく。
13回	小論文 意見文(時事問題) 時事問題は、各自が 選別	先回の小論文を添削の上返却する。全体講評の後、実作に移る。
14回	文の三原則(3) 簡潔な文 章を書くには	一文の長さ、接続詞、指示語を意識する。これらを、例文を直すことで確認していく。
15回	学習事項の確認テスト	学習事項を確認するためのテストを実施する。
16回	まとめ	小論文4回目と小テストを返却する。その後、本年度の授業のまとめをする。
【到達目標】	文章の構成や組み立てを意識して、文章を作成することを目標とする。また、実作と添削の中で、各自が文章作成にあたっての自己の課題点を見つけ、それを解決することもあわせて目標とする。	
【徳山高専学習・教育目標】	A 2	【J A B E E 基準 1(1)】 f

【評価法】	小論文80%、小論文準備シート10%、確認テスト10%で総合評価する。最終評価 = (小論文 + + +) / 5 + 小論文準備シート + 確認テスト小論文の評価は、A+(90) A(85) A-(80) B+(75) B(70) B-(65) C+(60) C(55) とする。
【テキスト】	テキストは用いない。毎授業時に提示する「学習シート」「プリント」「小論文(添削済み)」を綴じていくことで、一冊のテキストになるようにしている。
【関連科目】	日本語コミュニケーション(本科4年生) 国語総合Ⅱ(本科3年生)
【成績欄】	前期中間試験 前期末試験 前期成績 後期中間試験 後期末試験 学年末成績 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】